

平成30年度 第2回 黒部市環境審議会

日時 平成31年1月11日(金) 13:30~15:00

場所 黒部市役所2階 202・203会議室

出席者

(委員)

楠井 隆史	富山県立大学 教授
福島 孝	黒部市農業協同組合 代表理事組合長
岩田 善治	黒部川左岸土地改良区 理事
舟子 忠明	黒部市自治振興会連絡協議会 副会長
浦田 裕治	富山県環境科学センター 所長
浅生 秀孝	富山県農林水産総合技術センター農業研究所長
大江 浩	富山県新川厚生センター 所長 代理 次長・衛生課長 堀田 和
稲垣 里佳	富山県地球温暖化防止活動推進員
村田 光朗	黒部市環境衛生協議会 会長
丸田 将揮	黒部市水資源対策協議会 監事
大矢 慎司	黒部名水会 事務局次長

(欠席)

島 武夫	黒部商工会議所 専務理事
森野 泰夫	くろべ漁協協同組合 代表理事組合長
田子 泰彦	富山県農林水産総合技術センター水産研究所長

(幹事)

御田 泰晃	黒部市企画総務企画部長 代理 次長・総務課長 魚谷 八寿裕
村田 治彦	黒部市市民生活部長
有磯 弘之	黒部市産業経済部長 代理 次長・農林整備課長 山本 稔浩
島津 博	黒部市都市建設部長
長田 行正	黒部市教育部長
能登 康広	新川地域消防本部 黒部消防署長

(事務局)

黒部市市民生活部市民環境課

次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 報告事項
 - (1) 経過報告
 - (2) 委員からの提案事項等
4. 審議事項
 - (1) 計画(案)の検討
5. その他 今後のスケジュール
6. 閉会

資料

1. アンケート調査結果
2. 委員からの提案事項等
3. 計画(案)
4. スケジュール(変更)

1. 開会

2. 挨拶（会長）

第1回会議を8月6日に開催し、5か月が経過している。
その間、アンケートを実施し、企画部会を2回開催し、委員意見をいただいて計画案の検討を行った。
本日は計画案の検討をし、この後のパブリックコメントに付したいので、委員の皆様の見解をいただきたい。

3. 報告事項

- (1)経過報告
- ・アンケート調査報告（市民アンケート、小学5・6年生アンケート）
 - ・企画部会報告（部会長は稲垣委員）
 - ・庁内関係部署の確認
- (2)委員からの提案事項等
※修正部分は、計画案に赤字で記載している。

4. 審議事項

(1) 計画（案）の検討

<第1章、第2章について> P.1~P.15

事務局 資料3に基づき、計画（案）を説明。（章ごとに）

委員 OP.3 第1章 5.推進主体と役割
・通勤者や観光客はどこの分類になるのか。
→通勤者や観光客は「滞在者等」になるので、表中の「滞在者」に「等」を加える。

委員 OP.6 第1章 2-1 生活環境 ①大気環境
・PM2.5については、平成29年度、県では環境基準を達成していると評価しており、表記の修正を願いたい。
→表現を修正させていただく。

委員 OP.12 第2章 市民アンケート「環境課題への取り組み優先度」の結果
・5位が「海洋汚染」である。子供たちが10年後に計画を見て、10年前に問題になっていたことをわかるだろうから、5位を記載したらよいのでは。
→海洋プラスチック問題が世界的に問題となっており、表記することに問題はないので記載する。

委員 OP.12 第2章 市民アンケート「環境課題への取り組み優先度」
・表中の数字を%で表記したほうがよい。

委員 OP.13~14 第2章 2-7 持続可能な社会の形成への取り組み
・SDGs 環境関連12の目標について、環境省が示す環境関連の12の目標は、「17 パートナリシップで目標を達成しよう」ではなく、「8 持続可能な経済成長（働きがいも経済成長も）」であるので、検討を。

<第3章、第4章について> P.16~P.31

委員 OP.29 第4章 施策2 環境保全活動の推進
・数値目標「市民団体によるボランティア清掃実施回数」の単位「人/年」は誤りでは。
→誤りであり、単位を「回/年」に修正。

委員 ○P. 29 第4章 施策2 環境保全活動の推進
・P. 10 第2章 小学5・6年生アンケート「どんなまちにしたいか」で、「ごみがないまち」が28%でダントツ。
・昨年実施した市内小学校での出前講座で、ミャンマーの海岸にプラスチックごみが死因のクジラが漂着した話をしたところ、海洋マイクロプラスチック対策を世界で考えていることを子供たちは知っていた。
・昨年10月12日の3R全国大会で、石井知事が基調講演で県内の海岸漂着物450ト。長崎21,600ト、石川4,600トで海外からが多いが、富山は80%が県内由来の漂着物。
・提案として、県の「みんなできれいにせんまいけ大作戦」の取組を前面に出して、河川も含め、計画の一文に入れられないか。
・黒部市はポイ捨てをしない、海に流れる廃プラは回収している、きれいな川を目指しています、10年後は全世界のモデルになるようにしますという主旨で発信したい。
→海洋プラスチックごみが問題視されており、P. 29の環境美化活動の推進に「海岸清掃」を入れることとしたい。

委員 ○P. 28 第4章 施策2 環境保全活動の推進
・食品残渣を減らし環境負荷を少なくすることや、地産地消について、子供が学習できる機会があればよい。
→地産地消の所管部署に確認し、検討する。
○P. 19 第4章 施策1 公害防止対策の推進 ①公害等に関する監視や指導の強化
・水質汚濁や土壌汚染を調査する機関はあるのか。定点観測ができないのか。
→水質は、市が河川を毎年調査している。土壌は難しいが、今後の検討課題とする。

委員 ○P. 26 第4章 施策2 再生可能エネルギー導入の推進
・ディスポーザは、再資源化なのか。減量化ではないのか教えてほしい。
→黒部の浄化センターでバイオマス利用をしており、下水から下水道汚泥を取り出し、メタンガスを発生させる。本来ならば生ごみを入れれば有機物としてエネルギーを得られるが、生ごみの収集は困難なのでディスポーザを促進し、エネルギーとしている。
・水環境として、水道普及率は県内では比較的によく7割程度である。塩水化が起こるのは伏流水が少なくなって起こるのかもしれないが、今後の課題として水道の整備もあるのかなと思います。

委員 ・アンケートでは、子どもたちはゴミのないまちにしたいという意見が多く、一般での優先的に取り組むべき課題は、再資源化、廃棄物処理、地球温暖化問題だった。
一方、実際の環境への取組は、太陽光発電の使用、自動車の使用、使い捨てプラスチック不使用、エコマーク商品等の購入、生ごみ処理機の使用などが非常に低い結果で、関心度が高くて費用がかかるので、市が支援していただかないと取組みづらいものもある。計画には「推進します」とあるが、もう少し具体的な取組事例を入れると取組みやすい。

委員 ○P. 24 第4章 施策1 廃棄物の発生抑制
県の会合では、3Rや食品ロスの対応が必要。P. 24の基本目標にあるが、そういったものに力を入れてほしい。

委員 環境審議会委員として環境基本計画の(素案)から(案)への策定に参画できたことを素直にうれしく思っています。出前講座で小学校の児童に「清水の美味しい理由」などの話で接していますが、第2次黒部市環境基本計画が目指す10年後(2028年)の景色は、成長した子供たちが自慢できる、誇りと思える黒部市になって欲しいと思

っています。

委員 水資源の現状をしっかりと把握して、データを蓄積して、将来にどうしていくか、数値を出すための調査が必要だ。具体的に目標は必要だが、こうしたらどこまでどういうふうになるのか効率みたいのを持ち、目標を明確に具体的にし、優先度をはっきりさせたら、取組みやすくなると思います。具体的なビジョンが見えるような取組をぜひ行ってほしい。

委員 OP.22 第4章 施策2 自然環境の保全 ②農地の保全
・環境にやさしい農業の推進の指標があればよい。

委員 OP.23 第4章 施策1 健全な水資源の保全
・数値目標「水資源の活用に取り組む企業数」は活用であり、環境保全に取り組む企業数の方が適当ではないか。

委員 OP.24 第4章 施策1 廃棄物の発生抑制
・「廃棄物の発生抑制」は3Rのリデュースにあたる。「廃棄物対策の推進」にしては。

委員 OP.24 第4章 施策1 廃棄物の発生抑制
・数値目標に「1世帯あたり資源物収集量」を増やす目標になっているが、資源物の中でもガラス瓶やペットボトルは軽量化されており、数値目標を達成させるのは大変難しい。重点課題にあげたので、ぜひ回収所を増設したり、回収アイテムを増やすなど、具体的に取組をしていただいて達成させてほしいと期待します。

委員 OP.26 第4章 施策2 省エネルギー及び再生可能エネルギー導入の促進
・「環境負担」の少ない～の部分「環境負荷」にしたほうがよい。

委員 OP.29 第4章 施策2 環境保全活動の推進
①環境美化活動の推進、②自然環境保全活動の推進の2つに分けてあるが、資源の古紙回収や節水、節電などの環境活動を追加してはどうか。検討してほしい。

委員 川から海にごみが流れていくというが、地区では、冬前と春先の年2回、バイパスやスーパー農道沿いの清掃をしている。11月にきれいに掃除したが、ごみが堂々と捨ててあった。警察と相談し、不法投棄禁止の看板を付けた。看板をつけた時はなくなるがその後元に戻る。海だけではなく、田舎のほうもごみに困っております。

委員 目標を立てたら、結果を毎年どこかで出して、計画に対してどうなっているのかを見ると関心が高まる。数値目標に対する結果を1年ごとに公表してはどうか。

委員 過去からみると、ポイ捨ては少なくなったし、マナーもよくなった。市民、事業者、滞在者等の区分はあるが、地域なり全体で取り組まなければならない。市での取組みが見えるように、運動喚起、地域ぐるみの機運醸成の仕掛けがあるとよい。

<第6章について> P.33～P.34

委員 P.33 黒部市が運用しているEMSにおける内部監査の仕組みをご説明ください。
→EMS推進委員会では、各課長が管理者で、自課の取組を把握し、自課以外の課を2人で監査する。最終的に環境担当課に集約され、総務課と情報共有している。

5. その他
事務局

資料4に基づき、スケジュールについて説明。

6. 閉会

以上